

日時：令和4年6月17日 7:00～8:00

会場：各施設（Web Meeting；Zoom 使用）

参加者（21名）；吉田剛委員長 川端茂徳 寒竹司 小林和克 重松英樹

田所伸朗 谷口慎一郎 橋本淳 藤原靖 船場真裕 町野正明 森戸伸治 安田明正 山田圭

山本直也 和田簡一郎 各委員（敬称略）

黒須健太 各オブザーバー（敬称略）

今釜史郎 安藤宗治 松山幸弘 各アドバイザー（敬称略）

欠席：安藤圭 岩崎博 後迫宏紀 高谷恒範 高橋雅人（敬称略）

■議題1：モニタリング委員会

- ・松山幸弘前理事長から JSSR 脊髄モニタリング WG は JSSR 教育研修委員会の関連下部組織として学術活動をしてきたが、5月の JSSR 理事会で JSSR 脊髄モニタリング委員会となることについてご報告があった。それに伴い、教育研修委員会担当理事である自治医科大学の竹下克志先生がモニタリング委員会の担当理事になられた。竹下担当理事から委員へご挨拶があった。WG の今釜史郎委員長は JSSR 安全医療推進委員会の委員長を担当しており、2つ以上の委員長は担当できないため、新委員長を選出することになった。
- ・WG 委員内で次期委員長に浜松医科大学の吉田剛先生が推薦され、委員全員の賛同を得て、新委員長に選任された。WG 委員長をお務めになられた今釜史郎先生は今後脊髄モニタリング委員会のアドバイザーを担当され、モニタリング WG の委員は全員脊髄モニタリング委員会の委員を担当されることになり、JSSR 事務局へ報告した。今釜前委員長と吉田新委員長から委員へご挨拶があった。
- ・吉田新委員長から、現在オブザーバーとして本委員会へ参加されている浜松医大の黒須健太先生が委員として推薦され、委員全員の賛同を得て委員に選任された。
- ・6月から事務局は名古屋大学から浜松医大へ移管することとなり、運営は後迫宏紀先生（北海道脊損センター）と黒須健太先生（浜松医大）が担当することになった。

■議題2：脊椎脊髄病研修コースについて

- ・2022年4月23日（土）パシフィコ横浜会議センター3階にて第20回脊椎脊髄病研修コース第IVコース（モニタリング脊椎脊髄病研修コース、定員100名に100名の応募あり）を開催した。講義1. 脊髄モニタリング総論を川端茂徳先生、講義2. 運動系・感覚系モニタリング各論を高橋雅人先生、講義3. 脊椎脊髄手術モニタリングのアラームポイントと合併症対策を吉田剛先生が担当した。試験監督は安田明正先生と町野正明先生が担当した。
- ・モニタリング脊椎脊髄病研修コース講義後に試験が行われ、受験者は97名であった（欠席3名）。試験問題選定時から何度か見直し作業を行い、30問の平均正答率は83%で正答率であった。モニタリング WG 委員内で合格判定について協議した結果、今回のモニタリング研修コース試験は97名受験者全員合格となった。本結果を JSSR 教育研修委員会と JSSR 事務局、理事会へ報告した。

■議題3：モニタリング認定医申請・審査

- ・脊椎脊髄病研修コース IV・試験後、昨年同様脊髄モニタリング認定医の申請期間は6月1日から30日までであり、7月から WG 委員2名1組のペアとなり申請書類の審査を行う予定。
- ・2022年秋の各施設での脊髄モニタリング・ハンズオンセミナー開催について、先行きが不確実なコロナ禍の状況を鑑み本年度は開催しない方針となった。

■議題4：モニタリング認定医資格継続の単位について

・日本臨床神経生理学会と日本脊髄機能診断学会の学会参加することで、脊髄モニタリングに関わる学術的知識、研究内容などを習得することができる。よって、この2学会の参加証をモニタリング委員会の定める資格継続のための講義受講証明にできるものとする。2023年以降の日本脊椎脊髄病学会学術集会における認定医資格継続のための講義に関しては、今後JSSRプログラム委員会で講演の設定などについて検討して頂くこととなった。

■議題5：JSSR-DB内の脊髄モニタリング判定の定義

JSSR-DB内の脊髄モニタリング判定における定義に関して、JSSR-DB事務局から当委員会へ検討して頂きたいと依頼があった。JSSR-DBで脊髄誘発電位測定の評価基準を定義して掲載することの是非については、モニタリング委員会の委員全員が掲載に賛成であった。掲載する定義内容について審議し、アウトカム、新たな神経麻痺、アラームポイントの定義づけを行った。

改変点

・現行の術式追加項目にて脊髄誘発電位計測を選択した後に主なモダリティー（経頭蓋刺激筋誘発電位（Tc-MEP）、体性感覚誘発電位（SEP）、それ以外の他モダリティーの中から一つ選択）項目を追加
・現行の脊髄誘発電位計測項目（true positive、true negative、false positive、false negative）にRescue 選択肢を追加

・①定義（アウトカム、新たな神経麻痺、アラームポイント）を追加

データベース委員会にて掲載方法と改修時期についてご検討して頂くことになり、DB改修の時期が定まり次第、JSSR 会員・データベースマネージャーに周知して頂くことになった。

・新たな神経麻痺定義について

JSSR-DB内に脊髄モニタリング判定の定義を追記することに伴い、新たな神経麻痺定義を記載することになった。過去にJSSR安全医療推進委員会で予定していた全国合併症調査での神経麻痺定義に倣い、現行のJSSR-DBでは術後合併症において神経麻痺の定義付け（運動麻痺はMMT2以上の増悪）がされている。一方、脊髄モニタリングWGではこれまで、運動麻痺=MMT1以上の増悪、で定義されてきた。DB登録者の混乱回避のために、神経麻痺の定義を再検討する必要がある、術後新たな神経麻痺定義について審議した。その結果、JSSR-DB内の術後合併症における神経麻痺の定義は、今まで同様に運動麻痺はMMT2以上の増悪とし、脊髄誘発電位計測における脊髄モニタリング判定の神経麻痺の定義は、運動麻痺はMMT1以上の増悪として、別々の定義で登録する方針となった。本委員会の方針をデータベース委員会へ報告し検討して頂く。

■議題6：研究進捗

下記研究進捗があった。

- ・浜松医大（吉田先生）
成人脊柱変形手術における術中神経根モニタリングのためのTc-MEP→英語論文 revise 中
BBDに対する術中脊髄モニタリング→今後検討
- ・山口大（船場先生）
頸椎手術における術前高度筋力低下症例はMEPの有用性が向上する→英語論文 revise 中
胸椎手術（側弯症を除く）のアラーム制度検討→学会発表予定
- ・杏林大（高橋先生に代わり代読）
脊髄モニタリング False negative の検討→論文投稿予定
手術高位別のアラームポイント成績→今後検討

■その他：

- ・名古屋大（町野先生）

2021年度モニタリングデータ（2021年4月から2022年3月まで）を収集した。取り纏め次第、委員へデータを送付する予定。

- ・医科歯科大（川端先生）

来年の脊椎脊髄病研修コース第IVコース（モニタリング脊椎脊髄病研修コース）の担当講師が講義内容に沿った試験問題の作成を行った場合、委員で問題内容を確認した後、試験問題のプールに入れる方向となった。

- ・浜松医大（吉田先生）

ASIAのスコアについて論文査読者から指摘があったが、本委員会で収集しているデータでは各筋毎のMMTを詳細に調査しているため、今までのデータから対応可能と判断している。

- ・次回開催予定日：2022年8月19日（金）7時 Web Meeting で開催（認定医申請、研究進捗など）

- ・次々回開催予定日：2022年11月26日（土）朝、現地とWebによるHybrid Meetingを予定